令和6年度　仰木の里小学校学校評価書

評価基準　A：優れている・よくできた・そう思う　B：良好・できた・どちらといえばそう思う　C：やや課題あり・あまりできなかった・どうちからといえばそう思わない　D：改善の必要あり・全くできなかった・そう思わない

項目		評価の観点	職員 小項目評定	職員 大項目評定	自己評価	学校関係者 小項目評定	学校関係者 大項目評定	学校関係者評価	今後の改善に向けて	関連するSDGsの目標
学校経営全般	①	学校経営管理全体計画は、社会のニーズ、児童や地域の実態、学校の課題を踏まえたものになっている。	B	B	①⑤年間行事計画について検討し、授業時数を削減することは、多忙な教員の働き方改革を推進していく上で必要だと感じているが、経験年数の少ない教員も増えているため、実際に各学年での各教科の学習内容の定着については、丁寧に見ていく必要がある。 ②自分のいいところや友達のいいところをたくさん見つけられるように、帰りの会できらきらさん探しの発表を続けている。 ③tetoruなどのアプリを活用することで業務の効率化につながっている。 ④「自分を高める3つの行動」については、「教師が範を示す」、「できている子どもを大いに褒める」ことについて、教師の意識が薄れてきているように感じる。今一度、初心に戻って、我々教師自身が高い意識で、次の学年に向けて子どもの力を伸ばしていきたい。 ④人の話を「聴く」ことは、日々の積み重ねが大切だと思う。どんなときにどのように聴かせるのか、子どもたちや教師の具体的な姿を職員みんなでもう一度確認するとよいと思う。 ④各クラスなどで「聴く」ことを月の目標や学級目標などに入れた方が良い。 ④自分を高める行動のあいさつ・聴く・そうじを全校で共有し、4月から言い続けてきたことで子どもたちの意識にも定着してきたように思う。そうじは、気を付けたいことを自覚している子どもも多くいた。学級でがんばっていけるように意識したい。 ⑤年間の時数改善がされ、働き方改革にもつながっている。 ⑥1年生は、学校生活支援員の先生がいてくださることで、より安心した学校生活が送れていてありがたい。 ・計画を通りにいかずにどこかしらで綻びが生じた時に対しての在り方や、無理なくみんなが働けるようにしていくことが大切だと思う。 ・風通しがよく、比較的意見の述べやすい職場環境となっているので、今後もさらに誰もが自分の意見を伝え合える環境を構築していきたい。 ・どのクラスにも支援が必要な児童がいるが、人手不足のため、支援が不十分である。	A	A	①地域との関係も良好で子どもも落ち着いた状態、学校が全体に安定した運営を推進しているように思う。そんな時こそ、それを維持継続しようと考えがちですが、学校の荒廃につながる始まりになってしまったことが過去何度もある。できれば今こそ、新しいチャレンジや思いきった取り組みをスタートさせる時はでないかと思う。 ①校長先生の強いリーダーシップに期待している。 ①②全校児童、全教職員が一つの方向に向いて活動している学校は、エネルギーに溢れ、小さなトラブルを封じ込むパワーがあると思う。 ②④学校、児童ともに努力され、成果がうかがえる。 ③「あいさつ」は人と話すきっかけになる。「聴く」ことは話し手を思いやる気持ちが育つ。 ④連絡アプリは、学校行事などがよく分かって便利である。 ④下校時の挨拶の時には、児童のほとんどが挨拶をしている。 ⑤思いきった取組みの一つとして、国や県の指定を受ける、企業や教育会の研究指定に応募する等々の試みがあってもよいのではないか。 ・校門ではなく、通用門を通ることの指導が徹底がされ、児童が理解をして行動している。	①今後も児童の実態や保護者・地域の願いの把握に努め、重点的な目標を分かりやすいものにしていく。 ②学校運営や学級経営の中で、教育目標を具現化した取組みを児童の実態に合わせて実践していきたい。 ③今後も保護者通信システムを有効に運用するために、目的や意図を保護者等とも共通理解しながら登録を進めていきたい。次年度は、週予定も配信する予定である。 ④自分を高める3つの行動が浸透していくように具体的な目指す姿を児童や教員と共有し、振り返って次の指導につなげていく機会を定期的に持つ。 ⑤児童の実態に合った教育課程となるよう改善と検証を続けていく。 ⑥学級担任だけではなく複数の目で子どもを見ていく体制をさらに効果的に運用するために、次年度は、教科担任制や授業交換を全学年で進めていく。	4 8 17
	②	教育目標（あなたもわたしも大切に　みつけよう☆いいところ）の設定は適切で、教育実践につながりやすいものとなっている。	B			A				
	③	保護者通信システム（tetoru、フォームス欠席連絡・アンケート、メール配信等）は十分機能（労務軽減、経費節約等）している	A			A				
	④	自分を高める3つの行動（時と場に応じた「あいさつ」、人の話を「聴く」、額に汗して「そうじ」）は児童に定着してきている。	B			A				
	⑤	各教科等の年間指導計画、配当授業時数、年間行事計画、日課表は検討され、改善を加えている。	A							
	⑥	教科担任制度関連の取組み（専科教員、4年入り授業、3年少人数指導、特支多人数アシスタント、学校生活支援員等）は十分機能している。	B							
主体的・対話的で深い学び	⑦	支持的風土を育てる学級・学年集団づくりの実践	B	B	⑦⑧⑨教職員全員が、みんなで決めたことを確実に実践してこそ成果が最大になるので、その部分の意識をさらに高めていきたい。 ⑦学級全体で学ぶ、一人ひとりの意見や考えを大切にする、友達の考えを大切にし、目と耳と心で話を聴くという教師の意識を高めていきたい。 ⑧学び合いによる授業づくりに励み、先生方も日々授業を工夫しながら行っている。 ⑧発達段階に応じたICTの活用の仕方について、まだ検討の余地があると思う。 場合によっては、ICTを使わずに、子どもに提示する方がよいこともあるかと感じている。場面に応じて使い分けができると良い。 ⑨学習進度に差が出る場合でも、全員が学習を調節して、深い学びができるよう手立てを考えていきたい。 ⑨1年生は、まず、隣の人の声を聴くこと、伝えることができるように、ペア学習を中心に学び合いをしてきた。2学期後半では、ずいぶんと聴くことや伝えることができるようになってきたと思う。1人では自信のない子どもも友達と一緒であれば、発言できたり、友達の意見を聞いて自分の考えがひらめいたりする姿も見られた。今後も授業研究や研修会で自分自身の学びを深めていきたいと思う。 ⑨校内研では、児童同士がどのように学び合っているのかがよくわかる。 ⑨学び合いを長年研究されてきて、子どもたちが主体的に学べる授業づくりをしている教師が多く、大変勉強になった。 ⑨まずはペアやグループで学ぶ機会を増やすこと、児童にとって学ぶ楽しさが味わえる課題になっていたのかをふり返り、自分自身が今年度の研究を通してブラッシュアップできたこと、足りないことを振り返る時間が必要だと感じた。自身の振り返りを、次年度の研究に繋げて生かしていきたい。	A	A	⑦学習発表会や運動会は、集団としての子どもの成長がはっきりと見える。 ⑧ESDは児童主体で進められ、企画・発表など自立心が芽生え、とてもよい取組みである。	⑦教育目標を軸に置き、今後も「みのりの木」や「人権の日の取組」、「学び合い学習」等全教育活動で行っている取組に磨きをかけ、支持的風土を育てていきます。また、普段の授業での「学び合い」を通して、友だちとのコミュニケーションの時間を多くとることで、心のつながりが深まるようにしていきたい。 ⑧今後も校内研究組織や情報教育部を中心に、PDCAサイクルを活用しながら授業改善を継続し、ICTの活用と共に情報モラル教育の実践と、情報セキュリティの整備の見直しを継続させていきたい。 ⑨校内研究では、これまで取り組んできた「聴き合い、学び合う」学習活動を重視しながら、今後も子どもの興味・関心を引きつけ、学習内容の理解を深める助けとなるよう、ICT機器の活用や に関してさらに研修の機会を確保する。自分で決めて、やりきる力を向上させたり、学習を通して達成感を味わわせたりしていくため、単元全体の構想を吟味した授業づくりを行っていきたい。	4
	⑧	協働する体験・伝え合う喜び・コミュニケーション能力の育成を図る授業の工夫改善（ICTの活用を含む）	B			A				
	⑨	主体的・対話的で深い学びを追究する授業研究や研修会の実施	B							
道徳教育の充実	⑩	生命を尊重する心やいじめを許さない態度などの道徳的実践力を育てる活動の実施	B	B	⑩⑪1年生で道徳科の参観をした後に保護者が、「道徳の授業は難しいのかなと思ったが、人の気持ちに立って考えることって大切ですね」と言っておられた。物事をさまざまな視点から考える機会がもてる道徳の授業は、改めて必要だと感じた。また、授業の準備や工夫、教師の価値観や普段からの発している言葉なども大切にしていきたい。 ⑩道徳教育が生活の中に結びついていないことが多い。道徳の授業だけでなく、学校生活の全時間が道徳教育であると思い、今後も子どもたちの育みにいかしていきたい。 ⑩情報モラルについて子どもに指導しても、家庭環境によってとても異なり、次から次へと問題が出てくることがもどかしい。 ⑪道徳の重点教材を決め、特に力を入れて授業をするのはよかった。 ⑪OJT研修の機会を生かして、年度当初や途中に道徳主任等による模擬授業や研修の機会をもつと良い。 ⑪校内で道徳の研究や評価をもっと積極的にしたいと思う。	A	A	⑩基本的ルールは守らなければならないことを身に付けてほしい。 ⑩道徳は社会への対応ができるための基礎であり、対人関係にもつながる大切な教育なので、児童が充分に理解できればと思う。	⑩道徳科の授業では、自分事として捉えた道徳的実践力の育成に取り組み、実践力の向上につなげたい。 ⑪次年度も「道徳参観」を学校行事の中に位置づけ、学習の内容や様子を通信で伝えるなど、保護者と共有して家庭と連携を図る機会を確保する。 ⑪道徳ノートの活用を年度当初に職員会議等で提案し、活用の定着や、道徳教育推進教師等による研修を行っていき、互いの授業の様子を見る機会を作るなど、研修の充実を図っていきたい。 ⑪道徳資料の整備を継続し、今後も児童の実態にあった資料を提示できるようにしていく。	4 5 10 16
	⑪	保護者等への道徳科の授業公開	A			A				
	⑫	ものごとを様々な視点からとらえ考えさせる道徳科の授業・評価に関する研究	B							
体力づくり	⑬	たくましい心と体を育てる魅力ある授業の工夫改善	B	B	⑬体育の学習においては、誰にとっても運動が楽しくなる時間を意識して授業を計画してきた。 ⑬指導要領に沿って授業をすることが必然ですが、運動を苦手に感じている児童が楽しめるような声かけや取り組みを授業の中で行っていきたい。 ⑬体育専科の導入についても検討していただきたい。 ⑭固有感覚・前庭感覚・目と手の協応等、学ぶ基礎ともなる体の基礎感覚のトレーニングを低中高学年別にメニュー化し、朝の会・授業前や授業中・休憩時間（OSや校庭等に設置したり、スタンプラリーにしたりするなどして）に学校全体で取り組んでいけるといいのではないかなと思う。 ⑭体育の時間での縄跳びを通して、友達が跳ぶ姿を見て刺激を受け、家で何度も練習する子が増えてきた。全員ではないが、少しでも体力がついていくように、働きかけていくことを今後もしていきたい。 ⑭子どもの体力低下が著しく、個人差も激しいため、全員の体力向上にはなっていない気がする。（体力がある子には物足りないが、できない子にも合わせないと楽しめなくなってしまうため） ⑮なわとびのスーパートライを実施し、練習に励む児童が増えた。	A	A	⑭木読みと体力づくりを一人一人に持たせ、毎日継続させておられることは素晴らしいが、フィードバックがどのようになっているのか今一つ明確に分からない。学級ごと、担任の力量によるかもしれないが、学校全体で成果なり、継続・努力、がんばりを認め合うシステムはあるか。 ⑮スーパートライに対し誰もが参加できる体力づくりはとても良いと思う。	⑬体育科学習での運動量確保や体力向上につながるよう学習資料の蓄積や研修の充実を図っていきたい。職員会議や打合せ等を利用し、短時間でもできるミニ研修の充実を図っていきたい。 ⑭体力テストにおける課題となっている項目については、体育委員会を中心に、レベルアップをねらったイベントの開催なども検討していきたい。 ⑭⑮年間を通して、簡単な運動に取り組めるようにしていきたい。 ⑭⑮引き続き、児童の委員会活動を中心にスーパートライ期間や体育イベントなど、運動を楽しめる環境作りをしてきたい。	3 4
	⑭	体力づくりを推進する運動実践	B							
	⑮	生涯にわたって健康を保持増進し、進んで体を動かそうとする意欲の育成	B							
指導改善（組織的・計画的）	⑯	学力向上を目指した指導体制・指導方法の工夫改善	B	B	⑯⑰他の先生方の得意分野や経験豊富な分野・学年の指導方法を学ぶ機会がもっとあればいいなと思う。 ⑰指導力向上のために、先輩教員が多くのことを教えてくださった。 ⑱時間があまりにも足りないことに苦戦している。 ⑱こういったアンケートが手書きから変わったことなど、少しずつ改革にはなっていると思うが、する業務量に対しての時間が足りないと感じる。 ⑱働き方改革については、超過勤務の少ない方の実践を交流するなどのミニOJTを行うことも一つの方策かと考える。	A	A	⑯教職員が少ない中で、前向きに指導改善に取り組んでいる。 ⑰⑱働き方改革はとても大切なことであると思う。削減できるところはどんどん削減して、若い先生方の負担を軽減し、子どもたちとの触れ合う時間を少しでも確保してほしい。ただ、質の改善ではなく、常に質の向上に努力する意識を忘れないでほしい。 ・指導には、教員が不可欠である。早急に増員をお願いしたい。	⑯全校体制で取り組んでいる「聴き合い、学び合う」活動を重視しつつ、教員相互の授業参観や授業研究を進めたり、保護者に家庭学習への協力を啓発したりして、子どもの学ぶ力の向上につなげていきたい。次年度は、国語科を中心として「読み解く力」の育成に取り組み、子どもの表現力の向上につなげていきたい。 ⑰今後もOJT等の研修の機会を確保するとともに、必要な研修については各部会等のリーダーが中心になり進め、教職員の指導力等の向上に努めたい。 ⑱「早帰りの日」の設定や一人一人の職員が改善を図り、学校全体の働き方改革を進め、教職員が生き生きと業務を行い、教育活動の質の向上につなげていきたい。	4 8
	⑰	教職員の指導力、情報活用能力、及び組織的な教育力の向上	B			A				
	⑱	働き方改革の取組と教育活動の質の改善	B							
育ちと学びを支える連携										
① 家庭・地域との連携・協働	⑲	子育てや家庭教育に対する保護者への積極的な支援	B	B	⑲保護者対応への担任への心理的負担が過大である。このことについて、事象発生の初期段階から組織的にどうするかについて、アイデアを整理・共有することが必要であると感じる。 ⑳普段の姿や体調面で気になるところを、連絡帳を通じてやりとりをすることで、保護者と子どもの健康面や内面を支えることを意識した。そのことが授業での学びに繋がり、意欲や自信につながることを感じた。 ⑳生活科や総合的な学習の時間で、地域の人、もの（場所）と多種多様につながることで、子どもたちの学習がより高まっていると感じている。コーディネートには一定の時間と労力が必要になるが、今後も継続していきたい。 ⑳地域の方と上手く連携を取り、学習を進めることができた。	A	A	⑳働き方改革もあり、難しいとは思うのですが、先生方が家庭や地域に足を運ぶ機会が機会が時間が少なくなっているように感じる。家庭訪問も含め、学区内を歩く先生の姿は減少しているのでしょうか。昔人間の私には、少し残念に思う。 ⑳家庭と地域との連携、協働がもう少し積極的になればよいと思う。 ㉑防災教育の推進については、課外授業を地域と協同で実施するなど、努力している。 ㉑防災講演や訓練について積極的に対応している。今後、児童自身が震災や火災の時にどのように行動していくのか実践的な訓練の導入が必要である。 ㉑交通安全について、実際に道路を通行して、安全について学習している。今、自転車事故が多発しているので、自転車の乗り方について一人一人に指導体制をつくっていきたい。	⑲常に子どもを中心に置き、保護者様と連携を図りながら支援を行っていきたい。 ⑳今後も学校を保護者や地域に開き、子どもの学びや安全がより充実するよう保護者や地域に働きかけを行う。 ㉑子ども達の目線に立って、校内を点検し、危険箇所の修繕等に努めるとともに、子どもが安心して過ごせる学校作りを進めていきたい。自分自身を守ることができる子どもを育てることを目標に、地域や関連機関とも連携を図り、防災教育や避難訓練等の計画・実践と、職員研修の充実を図っていく。	4 8 11 17
	⑳	保護者・地域との交流や情報発信、参観、懇談会、研修会の実施、地域人材の活用	A			A				
	㉑	防災教育・感染症対策等の推進を含む、地域の実態に応じた安心・安全な学校づくり	B			A				
② 保幼小中の連携	㉒	子どもの校種間交流や教員の出前授業	B	B	㉒生活科や総合的な学習の時間で、地域の人、もの（場所）と多種多様につながることで、子どもたちの学習がより高まっていると感じている。コーディネートには一定の時間と労力が必要になるが、今後も継続していきたい。 ㉒保幼小の連携では、一年生が自分たちのやれることを考えて年下の子を優しく迎える機会でもあり、幼稚園の先生と打ち合わせをしながら、連携をすることができたと思う。 ㉒1日入学がなくなったことで、1年生の昔遊びに参加してもらうという形に変わった。星の子保育園にも声をかけてくださり、交流ができる機会を作ってくださり良かった。 ㉒仰木の里幼稚園との連携は頻繁にありますが、その他の園や中学校とのつながりが薄い。各校園種への進学に向けて、つけたい力や課題を共有する場があるといいなと思う。 ㉓幼稚園保育園の先生方の子どもの見方はとても勉強になる。まだ公開保育に行かれていない先生を優先的に、来年度は参加してもらえるようにしたい。 ㉓自分自身も幼稚園での保育参観を行い、新たな視点や幼小連携について考える機会をもつことができた。 ㉔仰人教での交流で交流をしているが、各校どこまで意味のあるものにできているのか、どうすれば意味のあるものにできるのかを考えた内容になると良いと思う。	A	A		㉒保幼小中連携（保幼小・小小・小中）については、教員同士の連携をさらに深めながら、よりよい交流の取組を検討していきたい。今年度は、近隣保育園とも交流活動を行うことができた。 ㉓今年度も幼稚園の研究会に参加し、入学前の園児の姿や教師の支援を学ぶことができた。次年度以降も継続していきたい。また、仰人教の取り組みも限られた回数の研修でよりよいものとなるようにしていきたい。 ㉔キャリアパスポートに確実に取り組み、次のステージへのスムーズな接続につなげていきたい。今後も園から小学校、小学校から中学校への円滑な接続に向けた取組みを継続していく。	4
	㉓	校種間の授業公開や合同研修会	B			A				
	㉔	保幼小中の接続期の教育課程編成等、円滑な接続を図る校種間のカリキュラム研究	B							
組織的体制の充実										
① 生徒指導体制の充実	㉕	いじめや暴力行為、不登校等の生徒指導上の諸課題の早期発見、日常的な予防指導	B	B	㉕子ども支援会議でよく話し合い、クラスにいる課題のある子のことを1人で抱え込まずにできていてありがたい。 ㉕いじめや子ども同士のトラブルについて、子ども支援コーディネーターが中心的な役割を担うことにはなっているが、時期や時間帯によっては、すべての事案に深く関わったり、十分に相談に乗ったりすることが難しい現状がある。今年度、他のフリーの先生方や教務主任、管理職の先生方にたくさん助けていただいたが、まずは学年間での報告・連絡・相談がより活発化すると良いなと感じている。 ㉕㉖担任の先生はもとより、教頭先生や教務の先生たちの献身的な働きで学校の屋台骨が支えられていると感じている。教員個々の子どもや保護者への対応力を高める必要がある。 ㉕㉖今後の話でよいのだが、前年度以前の報連相シートを児童別にソートして検索しやすいような形式にできないか。（エクセル等で作成していく、または校支援の新機能に入れていただくよう要請していくなど） ㉕子どもや保護者のことでも相談をすると教務の先生方がすぐに動いて下さり、ありがたかった。 ㉖組織で対応するという意識があるのは非常によいと感じる。ただ、欠員が出た時に組織で対応するというのが難しくなっていた時があったので、そのような状況でいかに個々に任せるのではなく、チームで対応することを意識していきたい。	A	A	㉗家庭・地域・学校との連携はとても大事なことであり、tetoruを通じて連携が深められている。 ㉗緊急時用にtetoru以外での連絡方法活用していければと思う。tetoruをすぐに見ない時もあるため。 ㉗支援を必要とする児童が増える中、担任だけの授業では大変だと思う。	㉕今後も職員研修等を通して、個々の教員の力を高めていきながら、生徒指導や教育相談の情報共有や細やかな組織体制の維持と充実を図っていきたい。平時の情報共有も行い、早期発見、日常的な予防指導につなげていきたい。 ㉖担任だけでなく、多くの教職員が子どもに関わりを持てるような体制作り（教科担任制、交換授業、合同授業など）や定期的に情報共有の場を設定していく。また、情報を一元化し、切れ目ない見守り、支援を進めていく。 ㉗今後も子どもの最大の利益を指標としながら、適切に組織的に家庭・地域・関係機関との連携を行い、課題解決を図っていきたい。	4 11 17
	㉖	生徒指導・教育相談体制の確立と組織的な推進	B							
	㉗	家庭・地域・関係機関との連携による指導	B			A				
② 特別支援教育の充実	㉘	個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用	A	B	㉘個別指導計画の作成に当たって、関係教員で十分に相談し、検討する場を作れた。 ㉙特別支援においても、チーム学校として組織的に動いているため、安心して子どもや保護者に対応することができた。 ㉘個別の指導計画を立てるにあたって、様々な先生方が相談にのってくだされ、多面的に子どもを見られたことがよかった。また、子どもや保護者のことでも相談をすると教務の先生方がすぐに動いて下さり、ありがたかった。 ㉙特別な支援を要する児童が、学年が上がるにつれて課題が表面化してきているように思う。下学年の間のちょっとしたサインを低学年のうちにしっかりと見取って、早期発見・早期支援につなげたい。	A	A		㉘今後も特別支援コーディネーターとの連携を密に図り、情報共有に努めるとともに、保護者との連携を一層深め、必要に応じて個別の指導計画の作成と活用を従来通り確実に行っていく。また、個別の指導計画作成のための研修を行い、よりよい支援につなげたい。 ㉙学校全体で、子どもたちを支えていけるように特別支援教育委員会の継続と支援体制を整えていく。 ㉚校内ウイング（ホッとルーム）の環境整備等の充実を図る。また、今後も関係者との情報共有を確実に行いながら、相談体制を充実させていく。	3 4 17
	㉙	組織的・計画的な特別支援教育体制の確立	B			A				
	㉚	関係機関と連携した相談体制の充実	B							